

# 事業構想案【1600 字版】

ラジオ・ネクスト 100 構想:境界領域から世界を繋ぎ直す「共鳴」のプラットフォーム

【1. プロジェクトの原点:能登震災から生まれた「信頼」】本プロジェクトの種火は、2024 年に発生した能登半島地震にある。被災地の中心から声を届け続けた権谷達哉は、自らが抱える精神障害という困難を「表現の源泉」に変え、主要メディアが注目する中で全国のコミュニティ FM に呼びかけた。これに呼応した 32 の放送局が、既存の利権や系列を超えて結集。制作された特別番組は、単なるニュースではなく、被災地の「体温のある言葉」を全国に届けた。この「有事の結束」を、一過性のものに終わらせるのではなく、平時の経営基盤と文化発信のインフラへと昇華させることが、本構想の目的である。

+4

【2. 「深夜 8 時間」の解放による革新的ビジネスモデル】現在のローカルメディアが抱える最大の弱点は、深夜帯のコスト増とコンテンツの空洞化である。本構想は、深夜 22 時から翌朝 6 時までを「クロスネットワーク枠」と定義し、以下の仕組みで解決を図る。

+1

- 等価交換による相互乗り入れ: 加盟局は自局の番組をサーバーに提供し、代わりに最大 16 局の多様な番組を自局の裁量でプログラミングできる。

+2

- ランニングコストの徹底排除: 収録音源の活用により、深夜の追加人員は不要。既存の送出装置とネット環境があれば、新たな免許や資格なしで即日開始可能である。

+4

- アーティストとの Win-Win: 著作権フリーの楽曲提供と引き換えに、全国 30 局以上の放送を確約する。アーティスト自身が SNS で「全国放送中」と発信することが、そのままラジオ局の認知向上と営業力強化に直結する「自走型」のプロモーション構造である。

+4

【3. 思想的支柱:ラジオを「装置」から「概念」へ】プロジェクトの全容と深い哲学は、公式ウェブサイトに集約されている。

- RADIO 100 YEARS ( <https://currentowagontanis.wixsite.com/radio100years> )
- 構築のプロセス  
( <https://currentowagontanis.wixsite.com/radio100years/process> )

ここで語られるのは、ラジオというメディアの再定義である。現代社会は SNS の数値やアルゴリズムによって民意が操作され、思考停止が進行している。それに対し、ラジオは「ことば・音楽・対話」という根源的な手段によって、人々の想像力を再起動させる力を持つ。オールドメディアが資本論理や利権によって「語れない領域」を増やす中、制度の隙間にあるコミュニティ FM という「境界領域」こそが、検証可能性を持った「真実の言葉」を届ける場所となる。

+4

【4. グローバル展開と 2026 年への指針】本構想は国内に留まらない。英国のプロデューサー、スチュアート・エップス氏らとの提携実績を活かし、時差を利用した「24 時間死角のない循環構造」を構築する。「2026 年への活動指針」( <https://currentowagontanis.wixsite.com/radio100years/currentowa-2026> )では、以下の原則を掲げる。

+4

- **非政治・非宗教:** 信頼関係を維持するため、特定の思想や権力から独立した公共性を守る。

+2

- **独り勝ちしないフラットな組織:** 特定の局が主導権を握るのではなく、互いの自律性を尊重する。

+1

- **境界領域の開拓:** 被災者、表現者、そして「生きづらさ」を抱える個人の声を「検証可能な記録」としてアーカイブする。

**【5. 結論: 静かなる「記録による抵抗」】**「愛は世界を支配し、あなたと私を殺す ( <https://currentowagontanis.wixsite.com/radio100years/parents> )」。この言葉に象徴されるように、現代社会の冷徹な構造を理解した上で、それでもなおラジオという100年続く概念を使い、世界中の共鳴者と繋がり続ける。このネットワークは、単なる放送事業ではない。それは、失われゆく人間の手触りを取り戻し、次の100年へ向けて「静かな言葉」を積み重ねていく、根源的な表現活動である。あの震災で繋がった32局の絆を起点に、私たちは持続可能な未来へのエンジンを始動させる。